



家庭科におけるICTの活用について

新型コロナウイルス感染症への対応において、各学校様々な工夫をしながら取り組んで頂き、誠にありがとうございます。今回はICTの活用に関しての情報を共有し、各学校の実践に生かしていただければと思います。小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 家庭編では、「主体的・対話的で深い学びの実現には、コンピュータや情報通信ネットワークの活用が重要な役割を果たす。(P.79)」とあり、家庭科におけるICTの活用についても触れられています。その具体例として、文部科学省 Web サイト「StuDX Style」にまとめられていますので、ここで紹介させていただきます。(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/index2.html>)



市内でのICT活用の一例

GIGA スクール構想のもとでの小学校家庭科の指導において ICTを活用する際のポイント

- 生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する場面
 - ・撮影しておいた生活事象の前後の写真や動画等を同時に閲覧することにより、生活の中にある問題を見いだしたり、一人一人の知的好奇心を喚起したりする。また、一人一人の問題意識や気づきをメモに入力し、データを共有することで、課題設定につなげる。
- 生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する場面
 - ・調理や製作における作業工程等をクラウド上に保存した動画の URL を子供たちに一齐送信することにより、情報を共有するとともに、情報を一人一人が端末に保存し、繰り返し動画を閲覧することで、知識及び技能の習得につなげる。
- 解決の見通しをもち、計画を立てる場面
 - ・クラウド上に保存してある過去の作品や作り方の詳細な写真や動画データを繰り返し閲覧し、活用することにより、一人一人の調理・製作等の計画の立案につなげる。

(次項に続きます)



GIGA スクール構想のもとでの小学校家庭科の指導において ICT を活用する際のポイント

■生活に関わる知識及び技能を活用して調理・製作等の実習や調査・交流活動などを行う場面

- ・各自が収集した情報(作品等の写真、動画データ)を保存することにより、それらを活用して解決方法を検討できるようにする。
- ・互いの実習する様子を撮影し保存することで、各自の技能や言動を可視化し、技能の習得状況の把握や自己評価・改善に生かすことができるようにする。等

■実践した結果を評価・改善したり、改善策を検討したりする場面

- ・撮影した動画により、自己の実習等の様子(言動)を振り返り、自己理解や自己評価・改善に生かすことができるようにする。
- ・課題の振り返りを保存することで、自己の成長や思考の変容の様子を確認することができるようにする。

■家庭や地域での実践活動を振り返り、評価・改善する場面

- ・家庭や地域での実践の様子について、写真や動画での撮影、保護者からのコメントなどを保存し、その情報を共有することで、具体的な説明につなげたり、実践の改善に生かしたりすることができるようにする。等

子供たちのよりよい学びにつながる ICT の活用実践事例について、各校での取組が広がり、その情報の共有が図られることを期待しています。

浜松市教育委員会指導課 前田 浩平



～令和3年度家庭科部授業研究 授業の紹介～

残念ながら、本年度も授業研究を公開することができませんでした。本年度行っていただいた授業は、来年度の市教研で実践発表をしていただく予定です。

<西小学校 川合幸恵教諭>

6年生「こんだてを工夫して」

本題材では、自分の食生活を振り返ることで見つけた課題を解決しながら、食べる人のことを考えてこだわった献立を考えます。栄養バランス、色どり、味、地産地消、食べる人の健康面等、いろいろな観点を取り入れた献立を考えることができるよう、既習を振り返ったり旬や浜松産の食材について調べたりする活動を取り入れています。



<蒲小学校 中村真季子教諭>

5年生「すずしく快適に過ごす住まい方」

本題材は、「健康・快適・安全」や「持続可能な社会の構築」の視点をもとに、住まい方の工夫を実験・調査し、すずしく快適な過ごし方について考えます。年間計画では、6年生で行う題材ですが、5年生の総合的な学習の時間に学んでいるSDGsや夏休みの家庭の過ごし方と照らし合わせ学習できるように、時期を変更しています。

< 1、2部会の実践紹介 >

泉小 6年「できることを増やしてクッキング」

スクランブルエッグと三色野菜炒めの調理実習を行った。
コロナ禍のため、様々な感染症対策を行い実施した。

- ・「さくら連絡網」にて、実習の感染症対策を知らせた。
- ・2時間続きで、スクランブルエッグと三色野菜炒めを同時に作る際、自分の好みの食材を用意させた。
- ・当日、手指消毒→入室→身支度→手洗い…と、手順を板書で示した。
- ・1班につき5～6人。コンロで卵料理（2人）、野菜を洗い・切る（2人）、観察（1～2人）で開始。一人ひとり自分の分は自分で調理をした。
- ・出来上がった料理は、各自容器に入れ、試食は給食の時間に教室で行った。
- ・調理の振り返りとともに、調理時の感染症予防（手洗い・マスク・密にならなかったか）についても反省させた。



<容器に盛り付けた2品>

【成果】 好みの野菜を選び、全員が一通りの調理過程を体験することができた。コロナ禍でも調理実習ができるように工夫した。
(文責：松原孝子)

中部小 5年「整理、整とんで快適に」

「健康、快適、安全」の視点から整理、整頓について考え、家族の一員としてよりよい生活を作ろうとする意識を高めることを目的として実践を行った。

(1) 導入の工夫…「整理、整頓しないデー」の設定

導入で「整理、整頓しないデー」を設け、感じたことをホワイトボードに記入できるようにした。出た意見を「健康、快適、安全」の視点で分類し、整理、整頓をしないことがどのように生活に影響するのかについて話し合った。

(2) タブレット端末（カメラ、オクリンク）の活用

- ・校内の各所を撮影し、整理、整頓の工夫について話し合う。
- ・工具箱、ロッカーの写真を撮り、三つの視点で評価する。
- ・整理、整頓を行い、工夫した点をカードにまとめる。
- ・班で発表し合い、自分の実践を評価、改善する。



三つの観点ごとに色を分けている。

【成果】

<児童が作成したカード>
「整理、整頓しないデー」は、整理、整頓の必要性に気付き、効果的な導入だったと考えられる。そして、「健康、快適、安全」の三つの視点で目的をもって活動に取り組むことができた。また、タブレット端末を用い、成果や相違点を視覚的に捉えられるという利点があった。

(文責：山下 夢乃)

<編集後記>

夏の研修会「プチ実践の紹介」では、ICTの活用や感染対策をとしての調理実習など、各校の先生方が工夫して実践されている様子がうかがえました。その中から、子供たちが課題を解決するために、必要感のある学習になるようなきっかけや仕掛けを与えるヒントになる取り組みを紹介しました。共通体験を通して課題を解決すると子供たちの関心が高まり、効果的だと思いました。
(白脇小学校 田中利実子)